演題名　　術前化学免疫療法を施行した原発性肺癌における Deauville score の病理学的完全奏効予測能の検討

演者氏名　仁科　麻衣
所属先　　近畿大学医学部　外科学教室　呼吸器外科部門

・仁科麻衣　老木華　福田祥大　小原秀太　西野将矢　濵田顕　千葉眞人　伊藤正興　武本智樹　氏家秀樹　津谷康大・共著者の氏名

・近畿大学医学部　外科学教室　呼吸器外科部門

・抄録本文

【背景】免疫チェックポイント阻害薬を含む化学免疫療法による術前治療は非小細胞肺癌に対し普及しつつあるが，術前治療後の画像評価と病理学的治療効果との関連は明らかでない。本研究では FDG-PET における Deauville score（DS）の病理学的治療効果予測能を検討する。

【方法】化学免疫療法後に切除を施行し術前後 PET 評価が可能であった非小細胞肺癌 40 例を対象とし，DS と病理学的完全奏効（pCR）との関連を検討し，RECIST による形態学的奏効などと比較した。

【結果】DS1–4 群は DS5 群と比較し pCR 率が有意に高かった（56.5% vs 11.8%, p=0.007）。ROC 解析では AUC=0.736 を示し，DS1–4 を cutoff とした場合も良好な予測能を示した。多変量解析でも DS は pCR 予測因子であった。一方 RECIST による奏効は pCR と関連を認めなかった。

【結論】化学免疫療法後の DS は病理学的治療効果予測に有用な指標となる可能性が示唆された。